

地震学会特別シンポジウム「南海トラフ地震臨時情報：科学的データや知見の活用」に コーディネーターおよび講演者として参加しました（2019/9/15）

テーマ：災害リスク情報と社会

場所：京都大学 理学研究科 6号館 301号室（京都市左京区）

URL：<https://www.zisin.jp/event/list07.html>

9月15日（日）15:00-18:20に、日本地震学会の特別シンポジウム「南海トラフ地震臨時情報：科学的データや知見の活用」が実施されました（主催：公益社団法人日本地震学会）。南海トラフ地震（※1）は、過去に時間差を置いて連動発生した事例が複数知られていますが、このような知見をもとに、地震発生の可能性が普段より高まったとされた場合に「南海トラフ地震臨時情報」（※2）が発表される仕組みが動き始めています。本シンポジウムは、このような社会の動きを受けて実施されたものです。

当研究所からは、災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野の木戸元之教授が講演者およびパネルディスカッションのパネリストとして登壇し、福島洋准教授はコーディネーターとしてシンポジウムの企画に携わり、当日は総合司会を担当しました。

本シンポジウムは、地震学会会員向けに企画されたものだったので、大半の参加者は地震学研究者でした。南海トラフ地震臨時情報は、地震の予知（確度の高い短期的予測）の情報ではなく、あくまで普段よりも注意・警戒の度合いを高めてほしいときに発表される情報です。パネルディスカッションでは、臨時情報の持つ不確実性に見合う対応策が取られるよう地震学研究者がコミットしていくべきであるといった意見や、「異常」を知るためには「普段」を知ることが重要で、観測とデータ解析の研究を地震学研究者の責任としてしっかりとやっていくべきである、といった意見が出ました。

※1 南海トラフ地震とは、西南日本下に沈み込むフィリピン海プレートと、陸側のプレート境界が急激にずれることにより発生する巨大地震の総称です。

※2 地震学会広報誌「なみふる」119号（2019年10月 p4-5）に、南海トラフ地震臨時情報の解説記事があります（執筆：福島洋准教授）。

<https://www.zisin.jp/publications/naifuru.html>



木戸教授の講演



パネルディスカッションの様子